

機関番号：16102

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2008～2012

課題番号：20730367

研究課題名（和文）チームアプローチのための乳幼児期の自閉症スペクトラム行動特性に関する基礎的研究

研究課題名（英文）Study of the team approach in the support system for infants with Autism Spectrum Disorder

研究代表者

木村 直子（KIMURA NAOKO）

鳴門教育大学・大学院学校教育研究科・講師

研究者番号：80448349

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会福祉学

キーワード：自閉症スペクトラム、乳幼児期、地域子育て支援、家族、社会福祉関係

1. 研究計画の概要

本研究は、自閉症スペクトラムの子どもたちへの早期発見・早期療育にあたって、地域の保健師・保育士・幼稚園教諭のスムーズな連携によるチームアプローチ実現のためのデータベース構築を目的としている。具体的な研究の目的は以下の3点であった。

（1）自閉症スペクトラムの子どもたちの早期発見・早期療育を地域レベルで実現するために、地域の保育・教育・福祉現場の専門職（保育士・幼稚園教諭・保健師）が、発達障害に関する正確な共通認識・共通理解を持ち、自閉症スペクトラム児への早期発見・早期療育のためのチームアプローチの必要性を認識し、綿密にディスカッションを行い、適切な支援をできる基盤を構築し、発達障害児及びその家族に対して専門職によるチームアプローチでサポートしていく。

（2）乳幼児期に行動特性が出現する自閉症スペクトラムを対象に、早期発見・早期療育のために、地域の専門職によるチームアプローチに必要な自閉症スペクトラムの特性を整理・分類したデータベースの構築を目的とする。

（3）職種異なる専門職（教諭・保育士・保健師）が正確な知識や自閉症スペクトラムの子どもたちへの支援の理念を共有するために、乳幼児期の自閉症スペクトラムの行動特性から、支援の基盤となるようなマニュアルを作成する。

2. 研究の進捗状況

研究の目的に即して、研究の進捗状況を報

告する。

（1）自閉症スペクトラムの子どもたちの早期発見・早期療育に関して、A市（人口約61,000人、18歳未満の子どもがいる世帯は5795世帯（うち6歳未満の子どもがいる世帯は2233世帯の比較的小さな地方都市）において、地域の保健師・保育士・幼稚園教諭のスムーズな連携によるチームアプローチ実現のためのネットワーク作りを試みた。さらに、具体的なケースをチームアプローチで実践し、チームアプローチを実践するために必要なデータベース作りを試みている。

（2）乳幼児期に行動特性が出現する自閉症スペクトラムを対象に、早期発見・早期療育のために、地域の専門職によるチームアプローチに必要な自閉症スペクトラムの特性を整理・分類したデータベースを試験的に作成し、A市における乳幼児健診において、実際に運用しながらバージョンアップを図っている。

（3）専門職へのヒアリング調査や家族へのアンケート調査を実施し、乳幼児期の自閉症スペクトラムの行動特性とそれに対応した具体的な支援について整理した。さらに（1）、（2）のデータをリンクさせることによって、最終的には乳幼児期の自閉症スペクトラムの行動特性から、支援の基盤となるようなマニュアルを作成に必要な資料を整理している。

3. 現在までの達成度
②おおむね順調に進展している。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

平成 20 年、21 年と研究を遂行し（平成 22

年は育児休業のため保留)、現在までの達成度について、はじめに成果を報告する。

・国内外の事例及び情報を収集した。特に自閉症スペクトラムをもつ子どもと家族への支援の先駆的な地域(北海道S市・神奈川県Y市・大阪府S市・京都府K市・鳥取県T市)に積極的にアクセスし、地域の保育・教育・福祉現場の専門職の連携に必要な要素を検討した。

・自閉症スペクトラム児への支援について、特に保健分野を中心に地域における実践力の強化を図った。

・専門職・専門機関の調査については、本年度は地域の保育・教育・福祉現場の専門職との任意のディスカッションを行った。

・A市乳幼児健診における自閉症スペクトラム(発達障害)スクリーニングを整備し、その結果を学会発表によって公表した。

・A市立の幼稚園における自閉症スペクトラムをもつ子どもへの個別指導計画の作成及び実践を通して、教育・保健分野の連携の可能性を模索した。

さらに上記の成果をもとに、本研究の目的に即した達成度を、以下のように評価し、当研究の達成度を②とした。

(1) A市の個別ケースにおいては、地域の保育・教育・福祉現場の専門職が、自閉症スペクトラムに関する正確な共通認識・共通理解を持ち、早期発見・早期療育のため、綿密にディスカッションを行い、適切な支援をできるようにチームアプローチでサポートしていく体制が整いつつある。

(2) 早期発見・早期療育のために地域の専門職によるチームアプローチに必要な自閉症スペクトラムの特性を整理・分類したデータベースを構築するため、現在データを収集中である。

(3) 職種異なる専門職が正確な知識や自閉症スペクトラムの子どもたちへの支援の理念を共有するために、実践レベルでのアプローチは実施している。

4. 今後の研究の推進方策

これまでに収集した基礎データをもとに本年度以降は、以下の3点の研究計画を進展させ遂行することによって、本研究の目的を達成することを目指す。

・これまでに抽出した乳幼児期の自閉症スペクトラムの行動特性を整理する。さらに、家族、専門職、専門機関へのヒアリング・アンケート調査及び国内外の事例、情報収集、筆者のケース対応経験等から、行動特性に関するデータを追加で収集する。

・乳幼児期の自閉症スペクトラムの行動特性を、「行動」「遊び」「睡眠」「食事」「排泄」「感

覚の特異性」等に分類したデータを詳細に解析する。

・分類した乳幼児期の自閉症スペクトラムの行動特性をもとに、「自閉症スペクトラムの行動マーカー」を作成する。さらに「自閉症スペクトラムの行動マーカー」を家族や専門職、専門機関にフィードバックし、再検討することでより精度の高いマーカーを作成する。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計2件)

①木村直子、幼児健康診査における「発達障害」スクリーニングの手法、鳴門教育大学研究紀要、24、13-19、2009、査読無

②木村直子、幼稚園における発達障害をもつ子どもへの個別の指導計画作成に関する実践研究、鳴門教育大学授業実践研究：学部の授業改善をめざして 鳴門教育大学編、7、19-25頁、2008、査読有

[学会発表](計6件)

①木村直子、幼児期の子どもたちの「居場所」に関する研究—幼稚園の絵本の部屋における行動観察から—、日本インテリア学会 2009年大会、2009年10月25日、金沢学院大学

②木村直子、幼児健康診査における自閉症スペクトラムに関するスクリーニングの意義—1歳半健診及び3歳児健診における全数スクリーニングの実践—、日本児童青年精神医学会、2009年10月1日、京都国際会館

③佐藤智香、木村直子、小学校への移行における適応とレジリエンス、日本教育心理学会第51回大会、2009年9月19日、静岡大学静岡キャンパス

④佐藤智香、木村直子、小学校1年生用レジリエンス尺度作成に関する研究、日本家族心理学会第26回全国大会、2009年8月22日、大阪市立大学

⑤木村直子、自閉症スペクトラムにある幼児のグループワーク実践のための環境構成に関する研究—部屋の構造化を中心に—、日本インテリア学会 2008年大会、2008年9月27日、九州大学

⑥木村直子、「発達障害」をもった子どもたちへのチームアプローチの実践に関する研究—N市の幼児健康診査における全数スクリーニングを通して—、日本福祉のまちづくり学会 第11回全国大会、2008年9月1日、朱鷺メッセ：新潟コンベンションセンター